

公民 2 異文化との共生—解説—

銭湯マナーのポスター

このイラストは、全国公衆浴場業環境衛生同業組合連合会が作成した入浴マナーのポスターから抜粋したものである。経済の国際化にともない、日本で就労したり生活したりする外国人に対して、日本の文化でもある公衆浴場（銭湯）でのマナーを示したものである。文化や習慣の違いから日本の公衆浴場（銭湯）に対しても認識の違いが出てくるため、それらを丁寧に説明している。説明文の上から、日本語、英語、ハングル（韓国・朝鮮語）、タガログ語、中国語、ペルシャ語、ポルトガル語、ウルドゥー語となっている。

授業での使いかた

写真とあわせて紹介したいエピソードがある。

北海道小樽市にやってきた一部のロシア人船員が、日本での入浴マナーを守らなかったことが発端となり、小樽市の入浴施設が「Japanese only」の看板を掲げて、外国人の入浴拒否を行った。その点について、外国人への偏見、差別意識の問題としてアメリカのニューヨークタイムズがフロントページで取り上げた。

問題点を整理すると、外国人観光客などに対する、地元の受け入れ態勢ができていなかったといえるだろう。まず、言葉がよく通じないため日本での入浴マナーを説明したくても説明できなかった。また、ロシア人船員や観光客がやってくるにもかかわらず、行政レベルでの情報提供体制（入浴の仕方をロシア語で説明した資料など）が整っていなかったからである。

近隣諸国との経済的なつながりが強まるにつれて、日本で生活する外国人は増加している。異なる文化背景を持つ外国人とどのように共生していくかは、今後、日本の社会にとって避けられない問題である。

こんなエピソードも交えて、次のような発問が考えられる。

生徒へのアプローチ例—こんな発問が効果的—

- 日本にきている外国人に対して、どのようなイメージをもっていますか。
- 国籍、皮膚の色、言語などであなたが外国人に対してもっているイメージは違いますか。
- このイラストからあなたは、外国人がどのような間違いををすると思いますか。
- 外国に行った経験のある人は、日本の風呂との違いを説明してください。
- 外国人労働者が働いている姿を見たことがありますか。それはどんなところでしたか。
- あなたが外国で生活するとして、言葉以外で困ることは何だと思いますか。